

本徳寺故世話役 播州真宗門徒

追弔法要案内

九月三日午後一時
於亀山本徳寺



法要では五百年來の播州門徒の法義相統と本徳寺護持の尊行をご導師の表白に表して、厳かに仏説阿弥陀經が勤修されます。
經中の釈尊の舍利佛への説法を、私の問題と頂き、宗門の伝統に則って浄土真宗を領解させていただきます。
読經中には、それぞれの先祖先達への思いを手掛りに、仏徳への讃歎を南無阿弥陀仏の声明にこめて、お焼香をします。



法要を縁に後生の一大事を仏様の説法に聞いていきます。迷いの娑婆世界では自分の問題を先祖の問題にすり替えてしまふとんでもない過ちを犯しがちです。
先祖の供養を縁に、今を生きる私が先祖と共に阿弥陀仏の大慈・大悲に合掌するという真宗の正しい先祖觀を学びましょう。

娑婆の現世は余りにも利那的で残酷です。若い躰は乗り心地のよい乗物です。努力によって手に余る財福を享受しますが、「老・病・死」はそのすべてを根こそぎ奪っていきます。
人は自らの命を生きますが、命の依つて来る由縁と逝くところに疎いものです。従って、心底落ち着くの処を知らない。転変する心境に右往左往して最後はただ骨になるばかりです。是を仏教では無明といいます。
過去において数知れない先祖・先達がお念仏の真意を聞き、仏の誓願に促されて、この過酷な無明の命を見通す智慧を戴いていかれました。
先に行く者は後を導き、後の者は先を弔うとおり連綿と続く法義相統が浄土真宗の追弔会をかたちづくって来たのです。

